

消えつつある今だから...

「語り継ぎたい 大館弁」



生涯学習奨励員
 虻川 貞子さん
 (山田渡)

柴田 今日は、大館市生涯学習奨励員のかたに大館弁についての放談ということで集まっていたいただきました。司会進行は私、柴田が務め、話の中で民話評論家の河田さんに解説を加えていただきます。始めに「生涯学習フェスティバル」で募集した、大館弁の川柳をもとに話を進めていききたいと思います。

カグジ
日景 この川柳はどうですか。「カグジ」から 鬼来てらでは オヒル ばば。「カグジ」って、みんなわかりますか。
畠山 「カグジ」は家の裏のこと 裏口という意味もありますし。
高松 そうなんですか。私は「隠兒」と書いて「隠れる子」だと思ってました。
河田 これは昔からあった言葉で、万葉集の中にも出ています。



司会進行
 柴田 生涯学習課長補佐

「家の後ろ」という意味なんですね。「垣内」と書いて「カフシ」や「カフチ」と言っていたのが「カグジ」となったわけです。
柴田 古語が変化して方言になったってことですか。
河田 そうです。こういう言葉は結構あるんですよ。
日景 この川柳で思い出したんですが、子どものころは「カグジさ行くな」とよく言われたものです。
柴田 それはどうしてですか。
日景 「カグジ」にはどぶろくが



生涯学習奨励員
 兜森 喜一さん
 (餌釣)

あるからです。
畠山 どぶろくは、においが強いので、隠していても近付くとわかるんですよ。
河田 税務署の取り締まりが来ますと、半鐘を鳴らして知らせたところもあったそうです。
柴田 どぶろくはみんなの家で作ってたの？
日景 作りましたよ。柴田さんの家では作らなかったんですか。
柴田 うちの親が警察官だったんですよ。
日景 わつ、それは話す相手、間違えたな。(笑い)

モツケ

高松 「モツケ」はカエルのこと。
兜森 カエルは「ギャロ」とも言います。
畠山 だから「モツケのつらさ」は、「カエルの顔に」という意味です。
日景 「つら」って「顔」のことか。「つらい」だと思った。
高松 ですから、この川柳は「お酒を飲めなかつた子どもが、成長して、カエルが顔に水を浴びても苦にならないのと同じくらい飲めるようになった」という意味じゃないですか。
河田 なるほど、わかりました。
河田 「つら」は「ほお」のことです。昔は生活語として使われていました。こちらでは「つら」は卑下するような感じですけど、そうじゃないんです。
柴田 でも「つら」は国語辞典に載ってますよね。
兜森 ええ。漢字では「面」と書いて「泣き面にハチ」とか。
柴田 ただ何となく、方言的な響きがありますね。
兜森 方言は話すとはわかりますが、文字だとわかりにくいですね。

コドキヤダ・アガトリ・アイドリ

高松 この「あの人は コドキヤダひとだ わがままで」という川柳の「コドキヤダ」はよく使いますよね。「非常識だ」とかそうい